

完了後の評価個表

整理番号	15-1
------	------

事業名	森林居住環境整備事業	都道府県	福岡県
ふりがな 地域(地区)名	さわら 早良地区	事業実施主体	福岡県
関係市町村	福岡市	管理主体	福岡市
事業実施期間	H14～H18（5年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	① 位置等 早良地区は、福岡市の南西部に位置し、南北に長く広がる地形になっている。北部は博多湾に面するとともに、南部は脊振山系で佐賀県と接している。地区西部には福岡市の重要水源の一つである曲淵ダム及び室見川が流れ、良質な水を供給する水源域となっている。 ② 森林の状況 当地区の森林面積は5,332haで、そのうち民有林が3,954haであり、民有林のうち人工林が3,390haでは86%を占めており、県平均の約66%を大きく上回っている。 人工林のうち間伐等の森林整備が必要となる3齢級（15年生）から8齢級（40年生）以下の森林は977haで約29%を占めている。 また、地区内森林のうち水源涵養保安林が1,762ha、土砂流出防備保安林が650ha、保健保安林等115ha、全体で2,527ha（47%）が保安林に指定されており、適正な整備による森林の公益的機能の高度発揮が期待されている。 ③ 当地区を整備する目的・意義 当地区の民有林においては、これまでに3,390haの人工林が造成され、森林蓄積は着実に増加しているものの、その多くは保育・除伐及び間伐等が必要な段階にある。森林所有者等の森林整備に対する意欲の低下が懸念される中で、森林の有する公益的機能の高度発揮に対する期待が高まっているところである。 また、当地区には、森林整備を効率的に実施するための基幹となる林道等の路網が十分に整備されていなかったことから、森林整備の遅れが目立っていた。 このため、森林の公益的機能の高度発揮を目的として、森林整備を実施するために、その手段となる施業の必要な森林への到達時間の短縮、労働力や資材の効率的な移動等により林業労働の軽減及び森林施業コストの低減を図り、適切な森林整備を促進することを目的に林道を整備したものである。 （事業概要） 森林基幹道整備 さわら 早良線 車道幅員 4.00m 開設延長 3,588m 利用区域面積 2,174ha 総事業費 1,022,000千円 （当初総事業費 1,200,000千円）
----------	--

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	平成24年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 総便益（B） 2,470,246千円 （事業採択時 974,237千円） 総費用（C） 1,714,339千円 （事業採択時 875,976千円） 分析結果（B／C） 1.44 （事業採択時 1.11）
② 事業効果の発現状況	林道整備により、施業地までの到達時間の短縮及び作業コストの低減が図られ、着手前の森林整備面積35ha/年に対し、事業完了後の森林整備面積は88ha/年とこれまでの2.5倍に増加した。
③ 事業により整備された施設の管理状況	当事業により開設された林道は、福岡市が定めた林道管理要綱に基づき管理されており、毎年草刈りや側溝清掃等が行われるなど良好な維持管理状況である。
④ 事業実施による環境の変化	林道整備により、森林施業地までの到達時間の短縮等による林業従事者の労働条件の改善や整備コストの低減が図られ、森林所有者の森林施業の実施に対する意欲が向上している。 林道整備による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。
⑤ 社会経済情勢の変化	福岡県では平成20年度から森林環境税事業が開始され、荒廃した人工林の整備促進が図られていることから、林道の整備に伴う高性能林業機械の導入や搬出コストの低減などにより、林業生産性の向上、増加する間伐材の利用促進を図っている。

⑥ 今後の課題等	木材価格の低迷による林業採算性の悪化や林業従事者の減少・高齢化など、林業を取り巻く情勢は厳しく、森林の多くが間伐等の森林整備が不十分な状況であり、森林の有する公益的機能の低下が懸念されている。今後さらに路網の整備や施業の集約化、高性能林業機械の導入促進等による林業生産性の向上を図り、安定的な木材生産、森林整備を推進していく必要がある。 また事業により整備された施設については、引き続き適切な維持管理を行っていく必要がある。 ・地元の意見： 路網整備により、適切な森林整備が実施され水源涵養や山地災害防止等の公益的機能が増進されるとともに木材の安定供給に寄与している。（福岡県） 当事業の実施により、既設の林道等と連結させることで路網を拡充し林業施業の集約化、低コスト、高効率化に大きく寄与する。また、主要道路を有機的に連絡することにより中山間地の地域活性化にも大きく寄与する。今後はさらなる路網整備により間伐やその搬出を促進し、地域の活性化に繋げていく必要がある。（福岡市）
評価結果	・必要性： 森林施業や木材生産を効率的に行う基盤となる路網整備が求められていたことから、事業の必要性が認められる。 ・効率性： 現地の条件に応じた工種・工法が採用されるとともに、事業実施にあたって切・盛土量の抑制等によりコスト縮減が図られたことから、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 林道整備により森林へのアクセスが容易となり、作業効率が向上し、森林整備や木材生産が促進され、今後も一層の効果の発現が見込まれることから、事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林居住環境整備事業

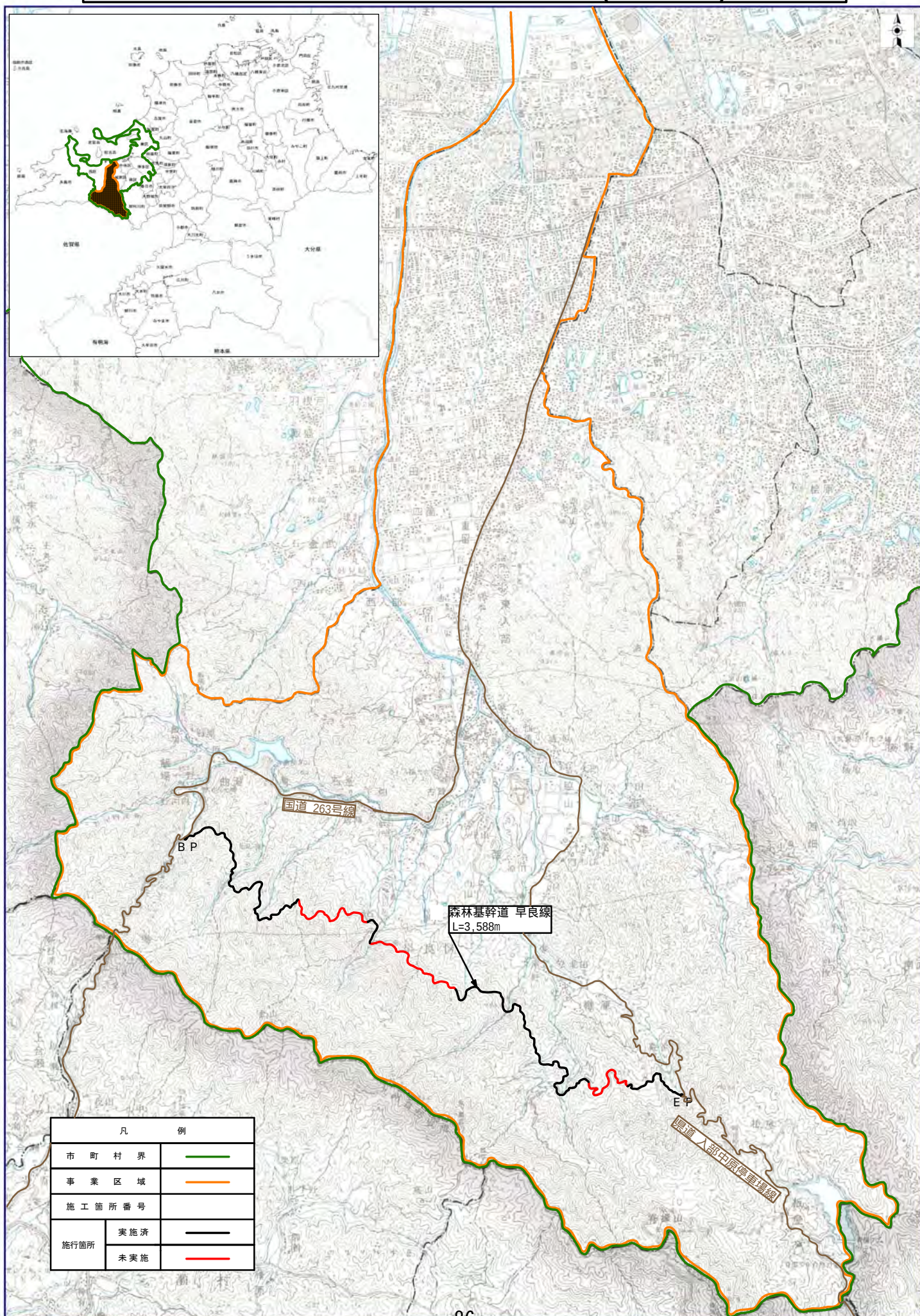
都道府県名: 福岡県

地域(地区)名: 早良地区^{さわら}

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	15,701	
	木材利用増進便益	35,788	
	木材生産確保・増進便益	274,374	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	58,909	
	森林管理等経費縮減便益	456	
	森林整備促進便益	1,930,519	
森林の総合利用便益	ふれあい機会創出便益	28,950	
災害等軽減便益	災害復旧経費縮減便益	110,294	
維持管理経費縮減便益		15,255	
総 便 益 (B)		2,470,246	
総 費 用 (C)		1,714,339	
費用便益比	$B \div C = \frac{2,470,246}{1,714,339} = 1.44$		

森林居住環境整備事業 早良地区(福岡県)概要図



完了後の評価個表

整理番号	16-1
------	------

事業名	森林居住環境整備事業	都道府県	福岡県
ふりがな 地域(地区)名	みやこ 京都地区	事業実施主体	福岡県
関係市町村	みやこ町、赤村	管理主体	みやこ町、赤村
事業実施期間	H14～H18（5年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	① 位置等 京都地区は、九州北部、福岡県の東部に位置し、北九州市より約30kmの距離にあり、田川郡赤村と京都郡みやこ町の旧犀川地区である。平成18年3月20日には、京都郡の勝山町・犀川町・豊津町の3町が合併しみやこ町が誕生した。みやこ町の犀川地区を流れる今川の上流に、赤村は位置している。 地区内の地勢は、南高北低で県内最高峰の英彦山を源流とする今川、祓川に沿って高度を下げ、豊かな田園地帯である京都平野へと続いている。 ② 森林の状況 当地区の森林面積は9,708haで、そのうち民有林が9,206haで95%であり、民有林のうち人工林が6,726haで73%を占めており、県平均の約66%を大きく上回っている。 人工林のうち間伐等の森林整備が必要となる3齢級（15年生）から8齢級（40年生）以下の森林は1,701haで約25%を占めている。9齢級（45年生）以上の人工林は、4,400haあり、人工林の半分は主伐期を迎えている。 ③ 当地区を整備する目的・意義 森林蓄積は着実に増加し、主伐期を迎えている。長引く木材価格の低迷のため、森林所有者の伐採意欲は低く、適正な管理が行われなくなっている。森林の有する公益的機能の高度発揮に対する期待が高まっているところである。 また、当地区には森林整備を効率的に実施するための基幹となる林道等の路網が十分に整備されていなかったことから、森林整備の遅れが目立っていた。 このため、森林の公益的機能の高度発揮等を目的として、森林整備を実施するために、その手段となる森林整備の必要な森林への到達時間の短縮、労働力や資材の効率的な移動等により林業労働の軽減及び森林施業コストの低減を図り、適正な森林整備を促進することを目的にみやこ町と赤村を連絡する線形で林道を整備したものである。 （事業概要） 森林基幹道整備 にしきいがわ 西犀川線 車道幅員 4.00m 開設延長 7,965m 利用区域面積 1,766ha 総事業費 1,640,000千円 （当初総事業費 1,260,000千円）
----------	--

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	平成24年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 事業実施の結果、開設延長の増により事業費が増大した。 <table><tr><td>総便益（B）</td><td>3,162,129千円</td><td>（事業採択時</td><td>1,028,421千円）</td></tr><tr><td>総費用（C）</td><td>2,542,286千円</td><td>（事業採択時</td><td>901,155千円）</td></tr><tr><td>分析結果（B／C）</td><td>1.24</td><td>（事業採択時</td><td>1.14）</td></tr></table>	総便益（B）	3,162,129千円	（事業採択時	1,028,421千円）	総費用（C）	2,542,286千円	（事業採択時	901,155千円）	分析結果（B／C）	1.24	（事業採択時	1.14）
総便益（B）	3,162,129千円	（事業採択時	1,028,421千円）										
総費用（C）	2,542,286千円	（事業採択時	901,155千円）										
分析結果（B／C）	1.24	（事業採択時	1.14）										
② 事業効果の発現状況	林道整備により、施業地までの到達時間の短縮及び作業コストの低減が図られ、着手前の間伐面積6ha/年に対し、事業完了後の間伐面積は18ha/年とこれまでの3.0倍に増加した。												
③ 事業により整備された施設の管理状況	当事業により開設された西犀川線（利用区域面積1,766ha）は、みやこ町、赤村が定めた林道維持管理規程に基づき管理されており、毎年草刈りや側溝清掃等が行われるなど良好な維持管理状況である。												
④ 事業実施による環境の変化	林道整備により、森林施業地までの到達時間の短縮等による林業従事者の労働条件の改善や整備コストの低減が図られ、森林所有者の森林施業の実施に対する意欲が向上している。 集落間の移動が容易になり、地域の活性化や森林空間の有効利用につながっている。 林道整備による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。												
⑤ 社会経済情勢の変化	福岡県では平成20年度から森林環境税事業が開始され、荒廃した人工林の整備促進が図られていることから、林道の整備に伴い高性能林業機械の導入や搬出コストの低減などにより、林業生産性の向上、増加する間伐材の利用促進を図っている。												

⑥ 今後の課題等	森林整備に対する森林所有者の意欲が徐々に向上されているものの、木材価格の低迷等により、未だ森林整備が十分とは言えない状況にある。今後さらなる路網の整備や施業の集約化、高性能林業機械の導入促進等による林業生産性の向上を図り、安定的な木材生産、森林整備を推進していく必要がある。 ・ 地元の意見： 路網整備により、適切な森林整備が実施され水源涵養や山地災害防止等の公益的機能が増進されるとともに木材の安定供給に寄与している。（福岡県） 当事業の実施により森林整備の推進が図られている。今後はさらなる路網整備により間伐材の搬出を促進し、木材の生産・流通体制の確立を図り林業の活性化に繋げていく必要がある。 また、森林レクリエーションの場としての利用を図り地域の活性化に繋げていきたい。（みやこ町、赤村）
評価結果	・ 必要性： 森林施業や木材生産を効率的に行う基盤となる路網整備、アクセス道の整備による地域活性化が求められていたことから、事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 現地の条件に応じた工種・工法が採用されるとともに、事業実施にあたって切・盛土量の抑制等によりコスト縮減が図られたことから、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 林道整備により森林へのアクセスが容易となり、作業効率が向上し、森林整備や木材生産が促進され、今後も一層の効果の発現が見込まれる。事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林居住環境整備事業

都道府県名: 福岡県

地域(地区)名: 京都地区^{みやこ}

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	80,508	
	木材利用増進便益	62,565	
	木材生産確保・増進便益	376,488	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	101,714	
	森林管理等経費縮減便益	2,785	
	森林整備促進便益	2,228,915	
森林の総合利用便益	ふれあい機会創出便益	57,858	
災害等軽減便益	災害復旧経費縮減便益	220,762	
維持管理費縮減便益		30,534	
総 便 益 (B)		3,162,129	
総 費 用 (C)		2,542,286	
費用便益比	$B \div C = \frac{3,162,129}{2,542,286} = 1.24$		